

総合計画市民検討協議会 第2回報告書（生活・環境 部会）

| | | | | |
|----------------------|---------------------------|-----------|---------------|-------|
| 記録者 | 矢島 彩子 | 場所 | 市役所北庁舎第1～3会議室 | |
| 開催日時・場所 | 平成24年2月4日（土） 午前9時30分 ～ 正午 | | | |
| 出席者 （10名） | 青野 まり | 伊藤 盛敏 | 大崎 清見 | 住崎 岩衛 |
| | 筒井 孝敏 | 宮野 貴司 | | |
| | 菅原 一修 | 鈴木 崇之 | 本間 雄士 | 矢島 彩子 |
| | | | | |
| 傍聴者 | 0名（ ） | | | |

1. 基本構想の見直しについて

| | |
|---------------|---|
| 見直しの視点 | <p>●「第1回市民検討協議会のまとめ資料」を確認した上での追加意見</p> <p>■都市像について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市民と行政が協働して作れる府中市」 →市民が積極的にかかわるイメージのほうが良い。 ⇒『市民が参画し、行政と共同する府中市』 ※“協働”ではなく“共同”にする…市民と行政両方に主体性が出てくる。 ・「市民一人ひとりの個性、個人を育てられる都市像」 →られるという言い回しが受身ではないか。 ⇒『市民一人ひとりの個性を生かしたまちづくり』 <p>●まちづくりの主な課題に関する意見</p> <p>【テーマ1：循環型社会の構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○“環境”に対する理解…環境問題というと、とにかく様々あって問題が大きい。理解を深めるのにどうやって、溝を埋めていくのが課題。 ○ ゴミ…現計画策定時では、ダストボックス方式だった。現在は収集型であり、市民・生産者・行政それぞれの目線で努力が必要。 <ul style="list-style-type: none"> ①市民 <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物と資源ごみの分別の徹底。 ・ 意識の改革。 例)「袋を買えば、ごみは出せる」という考えを改める。 ②生産者 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生産段階でゴミ抑制に責任を持つ。(包装ごみ、びん等) ③行政 <ul style="list-style-type: none"> ・ 府中市から外へ情報発信していく。 →個人ではどうしたらいいかわからない。疑問を解消するため。 また、府中市の取り組みについても世間へ。 ・ ゴミ削減の意欲につながるツール作り。(PDCA サイクル作り) ○ 3R の徹底…現計画の課題には、ReUse（再利用）があまり盛り込まれていない。 |
|---------------|---|

- 生活スタイルの見直し
 - ・ 便利さを追求したら、ごみは増え、エネルギーも使ってしまう。不便さを楽しむことが必要。
 - ・ 震災から始まった節電の流れを一過性せずに、継続的に続けていくことが必要。
- 生物多様性と人間のバランス
 - ・ 人間目線だけではなく、生態系への配慮も必要。
 - ・ 小さいころからの生態系への教育も必要。
 - ・ 急激な都市化により害虫や、ハクビシンなどの害獣がはびこっているが、そうした問題に対応する行政の管轄が明確でない。行政はこうした被害のニーズにも応える必要がある。

【テーマ2：地域の高度情報化の推進】

- 高度情報化に依存しない仕組み
 - ・ 高度情報化も必要だが、情報化が進むことに依存し、文字を忘れる、道を覚えられない等、頭が退化している。災害時の対応も考え、推進だけでなく、依存しない仕組み作りも必要。
 - ・ 仕組みを作ることにより、昔からの人と人とのつながり（コミュニケーション）の強化にもなる。
- 情報弱者を作らない仕組み、不平等を作らない仕組み
 - ・ 高齢者等、情報化についていけない者もいるため、情報の格差が生じる。行政は格差を埋めるために、必要なものをきちんと発信していく必要がある。例) FM の設置
 - ・ 行政は、推進するメリット・デメリットを見極める必要がある。

●土地利用に関する意見

時間の都合上、できなかった。